

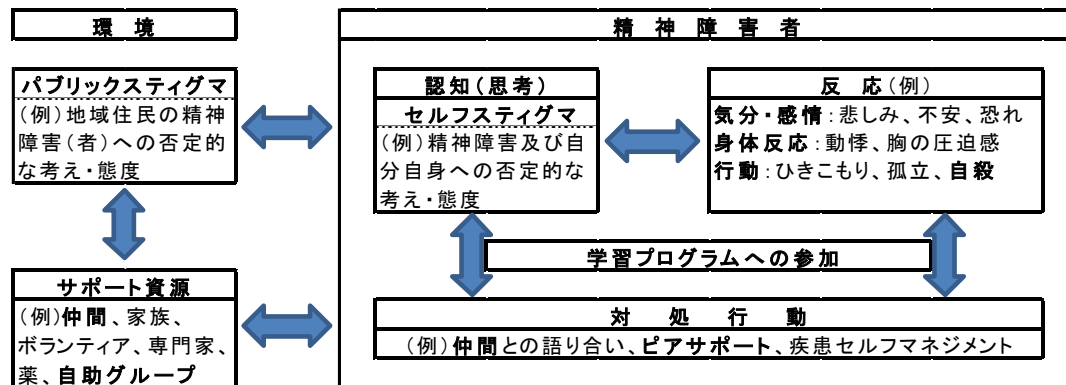
文科省「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議第9回」配布資料 2018. 9. 18.

長崎大学の事業報告

長崎大学医学部保健学科
田中悟郎

1. 最近の精神障害リハビリテーションの動向

- (1) 世界保健機関 (WHO,2013) は「メンタルヘルスアクションプラン 2013-2020」を公表し、「**地域における包括的ケアの提供**」を目標の一つにした。その実現のために、スティグマ (偏見) 及び差別を軽減するとともに、**ケアにおいては、障害を有する人を対等な協力者とみなして共に取り組むことを重視**し、精神障害者のリカバリー、ピアサポーターの育成・支援、自殺予防などを推進していくことを求めている。
- (2) 厚生労働省は、平成 29 年度から精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進・支援事業を新規に開始した。本事業の中に **ピアサポーターの養成**があるが、都道府県のピアサポーター養成の実施状況は 52.3% (2017) であり、各自治体等で独自に行われている既存のピアサポーター養成プログラムの効果も検証されていない。
- (3) 平成 25 年に精神保健福祉法が改正、平成 30 年 4 月には改正障害者総合支援法が施行されるなど精神保健福祉に関する制度は、絶えず変化をし続けている。しかし、改革のたびに問われ続けているのは、当事者本位の改革になっているか、ということである。
- ①「**当事者研究** (浦河べてるの家,2002)」や「**当事者主権・当事者学** (中西・上野,2003)」など、当事者の視点を重視した新たな学問領域も近年誕生している。ピアサポーターはその実践上の貴重な担い手となる新たな人材と言える。
- ②精神障害ピアサポーターを始めとする当事者が、専門職等と協働して新たなサービスを創造 (**Co-production : コ・プロダクション、共同創造**) し提供することで日本の精神保健福祉は真の改革を遂げると期待されている (小川,2016)
- (4) ピアサポートはセルフスティグマ軽減及びリカバリー推進に有効なのか？



2. リカバリーカレッジ (Recovery College)

(1) 歴史

米国のリカバリー教育センター (Recovery Education Center) を源流とするリカバリーカレッジ (Recovery College) は、英国において国民保健サービス (National Health Services: NHS) の一つとして 2009 年に初めて開設された。2018 年現在、英国のほか、ヨーロッパ (デンマーク、ベルギー、他)、オーストラリア、カナダなどに広がっている【資料 1】。日本では、単立ち会リカバリーカレッジ (東京都三鷹市) が 2013 年より、リカバリーカレッジたちかわ (東京都立川市) が 2015 年より実践されている。

(2) 内容

リカバリーカレッジは、治療的アプローチではなく主体的に学ぶことでリカバリーを目指す実践である。リカバリーカレッジで提供されるコース（講座）は、リカバリーを促進することに役立つと思われるものを、当事者と専門職で共に企画・実施されている。①当事者と専門職の**コ・プロダクション**、②**教育モデル**であること（自分の能力・強みに気づき活用できるよう支援）、③誰でも参加できることなどが原則である。海外のリカバリーカレッジの中には若年層を対象にした**ディスカバリーカレッジ（Discovery College）**を運営して所もある。

(3) 効果

複数の研究でリカバリーカレッジに参加することでリカバリーや生活満足度が向上することが報告されている。Bourneら（2017）は、英国のリカバリーカレッジの学生463名を対象にカレッジ参加前後の比較を行い、参加後は入院等の医療サービス利用の減少による医療費削減効果があったと報告した。

3. 長崎大学の事業（「障害者の生涯学習活動への地域包括的支援」）報告

(1) 事業実施体制

実施主体は長崎大学医学部保健学科、連携協議会構成員は9名（ピアサポートみなと代表・副代表、長崎県教育庁特別支援教育課、長崎県発達障害者支援センター、長崎障害者職業センター、長崎労働局、長崎こども・女性・障害者支援センター、長崎発達支援親の会会長、大村市社会福祉協議会）、コーディネーターはNPO法人のぞみ共同作業所長（作業療法士）である【資料2～5】。

(2) 経過

6月：契約締結

7月：事業実施体制整備 連携協議会構成員確定 ホームページ開設

8月：第1回連携協議会（8/2（木）15:00-16:30、参加者16名）

キックオフシンポジウム（8/19（日）13:00-16:00、参加者95名）【資料6】

学習プログラムの受講生（定員各15名）を公募（8/6-9/7）し、移行プログラムに11名と生涯プログラムに12名の応募があった。

(3) 今後の予定

①連携協議会

第2回（10/4）、第3回（12/4）、第4回（2/12-2/15未定）

②学校から社会への移行期における学習プログラム（移行プログラム）

目標：「仲間と出会い、自分の特性を知る」

【初回】9/23（日）13:30-16:30：オリエンテーション（自己紹介）、ピアサポーターの体験談1&2

【2回】10/21（日）13:30-16:30：疾患・障害の心理教育1&2、コミュニケーションについて

【3回】11/18（日）13:30-16:30：会話を始める、会話を続ける、会話を終える

【4回】12/16（日）13:30-16:30：感情のコントロール1&2、ストレス対処法

【5回】1/13（日）13:30-16:30：自分の特徴を伝える1&2、修了式

③生涯の各ライフステージにおける学習プログラム（生涯プログラム）

目標：「夢や希望を持って生活できる」

【初回】9/30（日）13:30-16:30：オリエンテーション（自己紹介）、ピアサポーターの体験談1&2

【2回】10/28（日）13:30-16:30：疾患・障害の心理教育1&2、ストレス対処法

【3回】11/25（日）13:30-16:30：WRAP1（日常生活管理プラン&引き金になる出来事に対処するプラン）、WRAP2（注意サインに対処するプラン&調子が悪くなってきている時のプラン）、WRAP3（クライシスプラン&緊急時を脱出した時のプラン）

【4回】12/23（日）13:30-16:30：恋愛・結婚1&2、当事者研究1

【5回】1/20（日）13:30-16:30：当事者研究2&3、修了式

④成果フォーラム

2/10または2/11に実施予定